

作成者:せるこ(@se1uco)！シナリオの自作発言・再配布はご遠慮ください。何かあればHPまたはTwitterまで！

	inSANE「最後の審判」
TRAILER	神が人を裁き分かつように この世界を襲った災厄は幾万、いや幾億もの命を奪ったんだろう。 友も、家族も、愛しい人もいないこの世界で あなたはたった一人生き残った。 inSANE「最後の審判」 ——— しかしまだ、判決は下されていない。
SCENARIO REGULATION	ルールブック:インセインのみ 詳細:1人用/5サイクル
WORLD SETTING	医療技術やAI技術がある程度発達した近未来日本(他の国でも大丈夫です)

PCHO	あなたは災厄によって大怪我をしている。動くのもやっとの怪我だ。これにより生命力を3点失った状態でセッションを開始する。 あなたの使命は「生き残る」ことだ。
------	--

PC SECRECY	
---------------	--

(※反転)

SCENARIO ATTENTION	このシナリオは変則キャンペーンシナリオとなっています。 一人が『ポストアポカリプス』ルートを通り、 もう一人が『最後の審判』ルートを通った後、 二人用ラストシナリオ『 』で落ち合うキャンペーンです。 単体で遊んでいただくことも可能です。
-----------------------	---

使用狂気カード:6枚 (例:恐怖症、虚無感、望郷、予知夢、依存、盲目)

《導入》

重たい瞼をゆっくりと開けば、そこは薄暗い場所だった。
瓦礫の隙間に身を埋めるように眠っていたあなたは、辺りをゆっくりと見渡した。
ズキリ、と身体に激痛が走り、あなたは思い出す。

この世界は数時間前、滅んでしまったのだと。

轟音と共に街を押し潰した濁流と土砂は、あっという間に全てを飲み込んだ。
街も、木も、動物も、人も。
近づく破滅の足音から逃れるように、あなたはこの建物へと走った。
建物の廊下の途中で、流れてきた瓦礫にあなたは強く頭を打ち付け、そして意識を手放した。

それがあなたが覚えている全ての事実だ。
冷たい水があなたの足元を濡らし、痛みはひどくなっていく。
ここにいても何も解決しない。
この廊下の先に大きな施設があったはずだと、あなたはぼんやりと思い出す。
進まねば。進んで...

あなたは生きなければならない。

【終末】で恐怖判定を行う。

《HO開示順》

- ・導入シーン 終了時→ PCの秘密(調査判定なし)
- ・1サイクル目 開始時→《亀裂のはいった壁》
- ・2サイクル目 開始時→《水の滴る隙間》
- ・3サイクル目開始時以降《水の滴る空間》にPCが一度でも移動していた場合
→《少し明るい隙間》
- ・《水の滴る隙間》 調査完了→《足元の隙間》、《端末》
- ・《少し明るい隙間》調査完了→《汚れた資料》

《特殊なルール》

このシナリオは以下の特殊なルールを使用する。

・セッションにおけるエリア区分を《薄暗い隙間》《水の滴る隙間》《少し明るい隙間》の3つに分ける。

- ・このエリア間をPCをが移動する際は生命力を1消費する。(例:薄暗い隙間→水の滴る隙間で生命力1消費)
- ・またエリアは《薄暗い隙間》と《水の滴る隙間》、《水の滴る隙間》《少し明るい隙間》が隣接しており、エリアをショートカットして移動することはできない。(例:薄暗い隙間→少し明るい隙間は生命力1で移動不可)
- ・エリアのHOを他エリアで調査することはできない。(KPが他エリアへ持ち出せると判断したものに関しては持ち出すと宣言があった場合のみ可)
- ・また、シーン表は各エリアごとに決まったものを使用する。

《シーン表》

(1~3 → 薄暗い隙間 4~6 → 水の滴る隙間 7~9 → 少し明るい隙間)

- 1:汚水は匂いがひどい。一刻も早くここから脱出しなければ。
- 2:風が通る音がする。どこかに穴が空いているのだろうか。
- 3:瓦礫の隙間に痛み止めを見つけた。少しは痛みが楽になるといいが。(鎮痛剤を1つ入手)
(※一度このシーン表をあけた場合、二度目からは以下の文に変わる)
- 3:ひどく疲れていてまぶたが重い。こんなところで安眠できそうにはないが。
- 4:元は医療施設なのだろうか。足元に錠剤が落ちていた。(鎮痛剤を一つ入手)
(※一度このシーン表をあけた場合、二度目からは以下の文に変わる)
- 4:荒い息遣いと水の滴る音だけが静かにこだまする。
- 5:頭に汚水がたれてきた。天井に亀裂がはいっているのだろうか。
- 6:小さな瓦礫に足をとられそうになる。足元を気をつけなければ。
- 7:瓦礫に医療道具が引っかかっている。割れていない注射器は一つだけだ。(鎮痛剤を1つ入手)
(※一度このシーン表をあけた場合、二度目からは以下の文に変わる)
- 7:小さな白い布の切れ端が瓦礫に引っかかっている。
- 8:汚水の色が見える。少し赤い気がするそれから目を背けた。
- 9:ほっと息をつく。少し明るいせいか他の場所よりも落ち着ける気がした。

《HO一覧》

亀裂のはいった壁
壁から風が通る音がする。
この壁を隔てて外の世界が広がっているのだろう。

秘密

ショック:あり

隙間からそっと外を覗いてみる。

僅かな穴から見た外は汚水と崩れ落ちた街の残骸が映画のセットのように広がっていた。

突然隙間を塞いだ"それ"と目が合ってしまう。

それは見るも無残な姿になった人の水死体だった。

壁に引っかかったのかその場に留まり続けるそれは、四肢はもげ、身体はぶよぶよと膨れ、むき出しになった眼球が絶望の色を残している。

自分も一歩間違えればこんな風になっていたのだろうか？

【死】で恐怖判定を行う。

また、【鎮痛剤】を一つ入手する。

水の滴る隙間

ぴちゃ、ぴちゃと天井のあちこちから汚水が滴っている。

今にも崩れ落ちそうだが、瓦礫が柱となって崩壊を防いでいるのだろう。

秘密

ショック:なし

床と天井の汚水はひどい匂いを放っている。

鼻と頭をやられそうなその匂いは不快でしかない。

→《端末》、《足元の隙間》を公開する。

端末

旧世代のタッチパネル式の端末だ。

汚水に濡れており起動するかどうか少々不安だ。

秘密

ショック:あり

どうやらこの廊下の防犯カメラの映像を記録した端末のようだった。

ガガ...とノイズと共に再生されたその映像は6年前から今日までの映像だった。
白衣の男や女が代わる代わる廊下を通して先の部屋へと入っていく風景が淡々と流れ続けるその動画は、とある日のとある時間を境に突如として揺れ始める。
轟音と悲鳴。立て続けに起こるその音に続いて、廊下を走る白衣の男が映像に映し出される。
男は悲鳴をあげながら中央の建物へ向かおうとする。
しかしその瞬間、廊下になだれ込んできた瓦礫に押し潰され、鶏の首を絞めたような声と共に消えた。
しばらく瓦礫や汚水が流れ込んでくる映像が人々の断末魔と共に流れた後、ゆっくりと揺れは静まり、やがて収まる。
そして映像の日付が変わりしばらくたった頃、こここの隙間へ入ってくるあなたの姿を捉えると端末はボンツという爆発音と共に機能を完全に停止した。
【暴力】分野の中からランダムで一つ選びその特技で恐怖判定を行う。

足元の隙間
足元の瓦礫の小さな隙間。
何か小さなものなら入っていそうだ。

秘密
ショック:あり
手を入れて探ってみれば、あなたは何かを掴んだ。
隙間からそっとそれを引き抜けば、太い棒のようなものはズルリと出てくる。
その棒の正体を認識した瞬間、あなたはどう反応したのだろうか。
棒のように思えたそれは、引きちぎれた人の腕だった。
血は抜け、あちこちに痣ができ、黄土色がかったそれは何かを握りしめていた。
手を開いてみればそこにあったのは小さな薬剤。
死に物狂いで何かを掴んだのだろうか。
その腕が握っていたものは彼を生かすにはあまりにも無力すぎた。
【医学】で恐怖判定を行う。
また、**【鎮痛剤】**を一つ手に入れる。

少し明るい隙間
先程までの場所よりも幾分明るい。
出口が近いのだろうか。

秘密
ショック:なし
先程よりもうんとよく辺りを見渡せる。
ふと足元にボロボロの紙束を見つけた。

→《汚れた資料》を公開する。
また、【鎮痛剤】を一つ入手する。

汚れた資料

『極秘資料につき、関係者以外の閲覧を禁止する』と書かれた一部破損している紙冊子の資料だ。

今どき紙を使うなんてよほど重要なことが書いてあるんだろうか？

秘密

ショック:あり

ページをめくれば『代理審判者』という題名が書いてある。

数十ページにわたるボロボロの資料を読み解けば以下の内容が書かれている。

・災厄の2時間以上後に《アラト》を訪れるものは"新人類""旧人類"に関わらず《代理審判者》がその真価を見定める。

・《代理審判者》は"旧人類"に対しては自動排除システムとして作動し、"新人類"が訪れた場合は審判者システムを作動させる。

・審判者システムに関して、正しい行動を取った場合《代理審判者》は《新天新地アラト》への道を空ける。

《代理審判者》への正しい行動について記述されたページを開いてみたが、破損や汚れがひどく、読み解けそうになかった。

【機械】で恐怖判定を行う。

《マスターシーン》

・2サイクル目開始時

瓦礫と瓦礫の間に人が通れそうな隙間を見つける。

その先からポタポタと水が落ちる音がした。

→《水の滴る隙間》を公開する。

・3サイクル目開始時

瓦礫と瓦礫の間に人が通れそうな隙間を見つける。

そこへと続く瓦礫の先からほんのりと明かりが漏れていた。

→《少し明るい隙間》を公開する。

《クライマックス》

瓦礫と瓦礫の間に人が通れそうな隙間を見つけた。

《少し明るい隙間》の先へと進めば、白い照明の明かりがあなたを迎える。

その先には白い扉があった。

やっと中央の建物へと辿り着いたのだと直感する。

その扉へと向かおうとしたその瞬間、扉のすぐそばの壁がバタン、と開き、中から天秤を持った一体のアンドロイドが黒い馬の形の機械に乗って道を塞いだ。

そしてそのアンドロイドはあなたを認めると言葉を発する。

「《代理審判者》の名において、(PC名)への判決を下します。」

→クライマックス戦闘が開始。

※《回想》の使用は可能です。

エネミー:代理審判者 黒い馬の騎士

飢餓をもたらす聖書の騎士の名を冠されたアンドロイド。黒い馬の形をした機械に乗りプログラムのままにアラトへの来訪者を審判する。

生命力:7 正気度:0 脅威度:2 速度:6(固定)

《切断》《分解》《電子機器》《乗り物》《兵器》《死》

基本攻撃:《死》

トリック:《兵器》

黒い馬の騎士になにかを尋ねた場合、『自身は神の代理審判者であること』『新人類ならば正しい答えを知っていること』を強調し、それ以外は答えることはない。

なぜならばこのアンドロイドはとある理由で壊れているからだ。PCを新人類だと認識することはできても、正しい行動についての記録は破損され、どちらにせよ来訪者を攻撃することしかできないのだ。

《エンディング》

・《黒い馬の騎士》を倒した場合

ギギ...ガガ...と機械のきしむ音とともに騎士は落馬し、そしてバラバラになった。

動かなくなったアンドロイドのモーターの音が止まれば、再びあたりには静寂が戻ってくる。

あなたの生きる道はもう目の前だ。

扉に向かって一歩、また、一歩とあなたは歩き出す。

扉はあなたを認めればゆっくりと開くだろう。

そしてあなたは踏み出す。

生きるために、忘れたものを取り戻すために。